

福津市
地域福祉に関する市民意識調査
結果報告書

令和 8 年 5 月

福津市

第1章 調査の概要

1 調査の目的

令和9年度を初年度とする「第4期福津市地域福祉計画・第3福津市地域福祉活動計画」の策定に向け、福祉に関する住民の意識やニーズを把握し、計画の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査の実施要領

調査期間	令和7年11月19日～令和8年1月9日
調査対象者	令和7年9月末現在、福津市にお住まいの18歳以上の方を無作為抽出
調査方法	QRコード付きハガキの郵送（希望により調査票を郵送）
配布数	2,000人
回答数	858人
回答率	42.9%

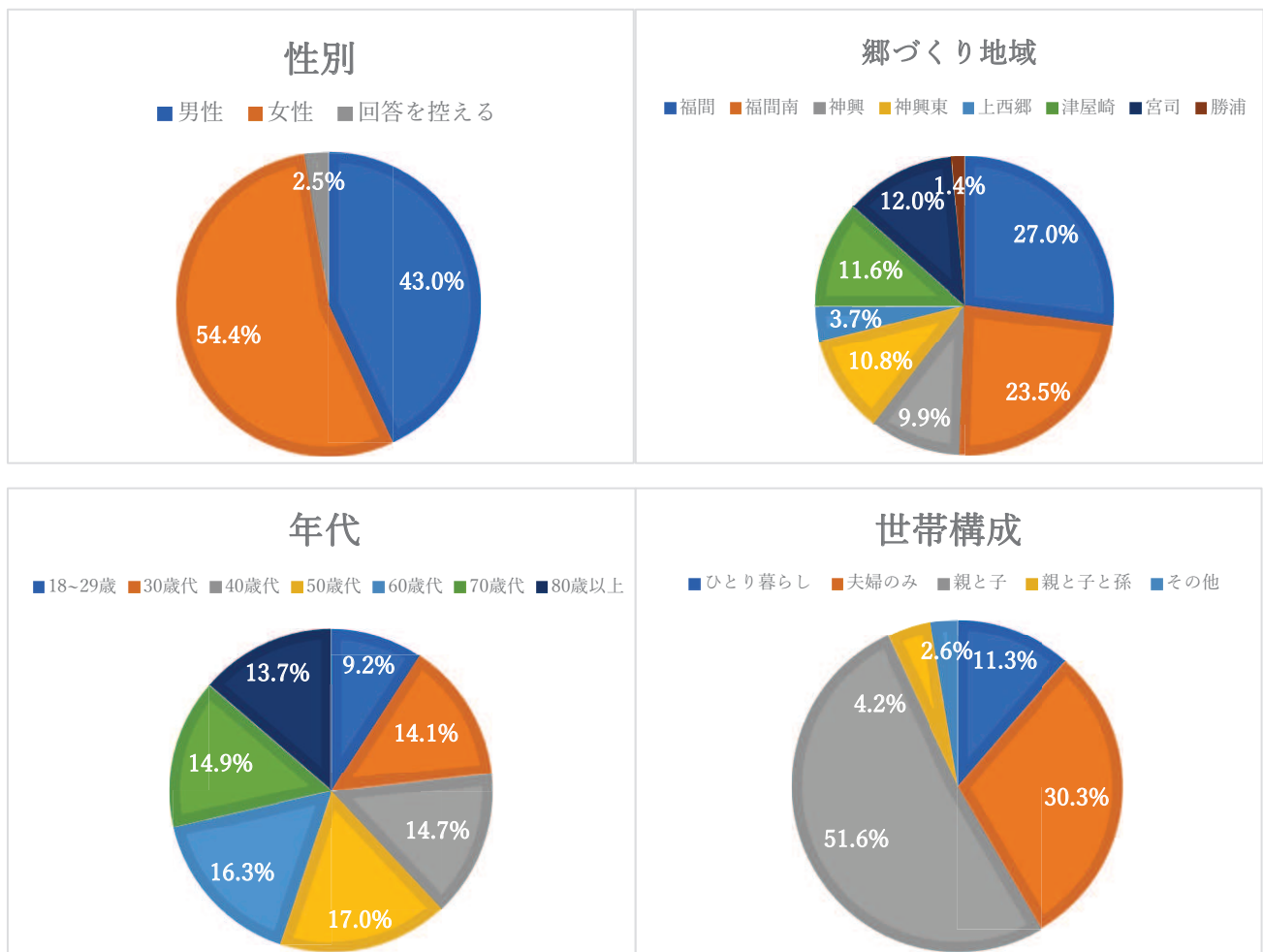
3 調査結果利用上の注意

- ・各設問のn＝は、回答者数を表しています。
- ・回答率は百分比の小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
- ・2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、選択肢ごとの割合を合計すると100%を超える場合があります。
- ・数表・図表は、スペースの都合上、文言や数値等を省略している場合があります。

第2章 設問別調査結果

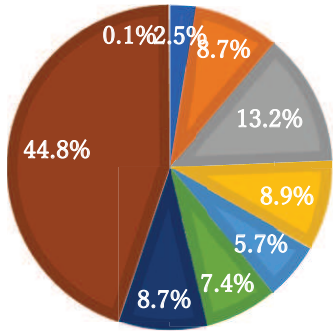
項目1 あなた自身について(回答者全体)

- 性別分布において、女性の回答者(54.4%)が男性の回答者(43.0%)よりも多かった。
- 郷づくり地域分布において、福間郷づくり地域(27.0%)と福間南郷づくり地域(23.5%)の回答者が全体の半数となった。
- 年代分布において、50歳代(17.0%)の回答が最も多く、次いで60歳代(16.3%)の回答が多かった。
- 世帯構成分布において、親と子の回答(51.6%)が最も多く、次いで夫婦のみの回答(30.3%)が多かった。
- 福津市での居住年数分布において、30年以上居住しているとの回答(44.8%)が最も多かった。
- 通勤通学分布において、通勤・通学をしていないとの回答(37.2%)が最も多かった。
- 自治会加入状況分布において、加入しているとの回答(72.0%)が最も多かった。
- 福津市への愛着度合において、とても愛着を持っているとの回答(41.9%)が最も多かった。



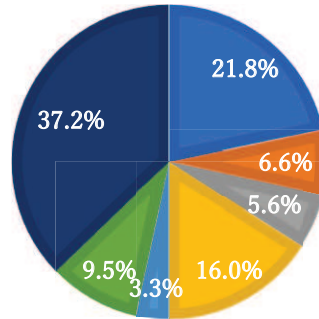
福津市での居住年数

- 1年未満
- 5年未満
- 10年未満
- 15年未満
- 20年未満
- 25年未満
- 30年未満
- 30年以上
- 不詳



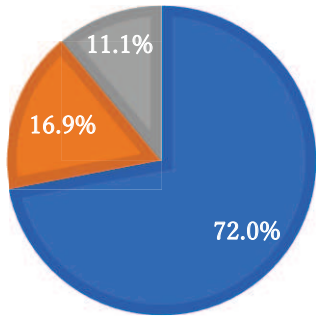
通勤通学

- 福津市内
- 古賀市
- 宗像市
- 福岡市
- 北九州市
- その他の市外
- 通勤・通学をしていない



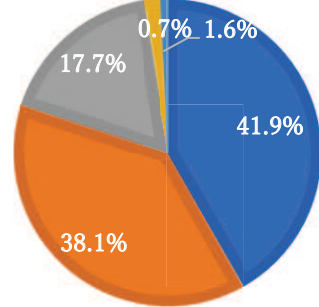
自治会加入状況

- 加入している
- 加入していない
- わからない



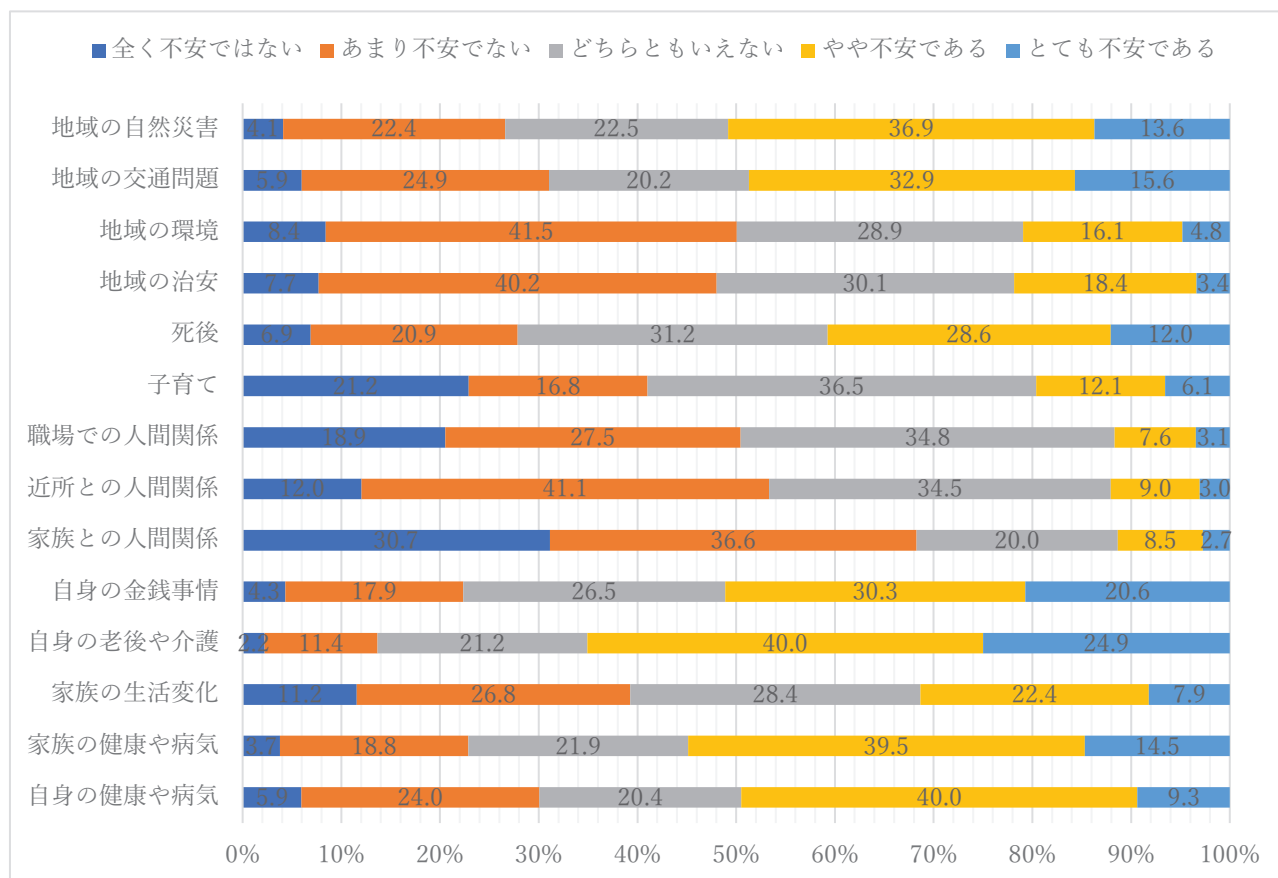
福津市への愛着度

- とても愛着をもっている
- やや愛着をもっている
- どちらともいえない
- あまり愛着をもっていない
- まったく愛着をもっていない



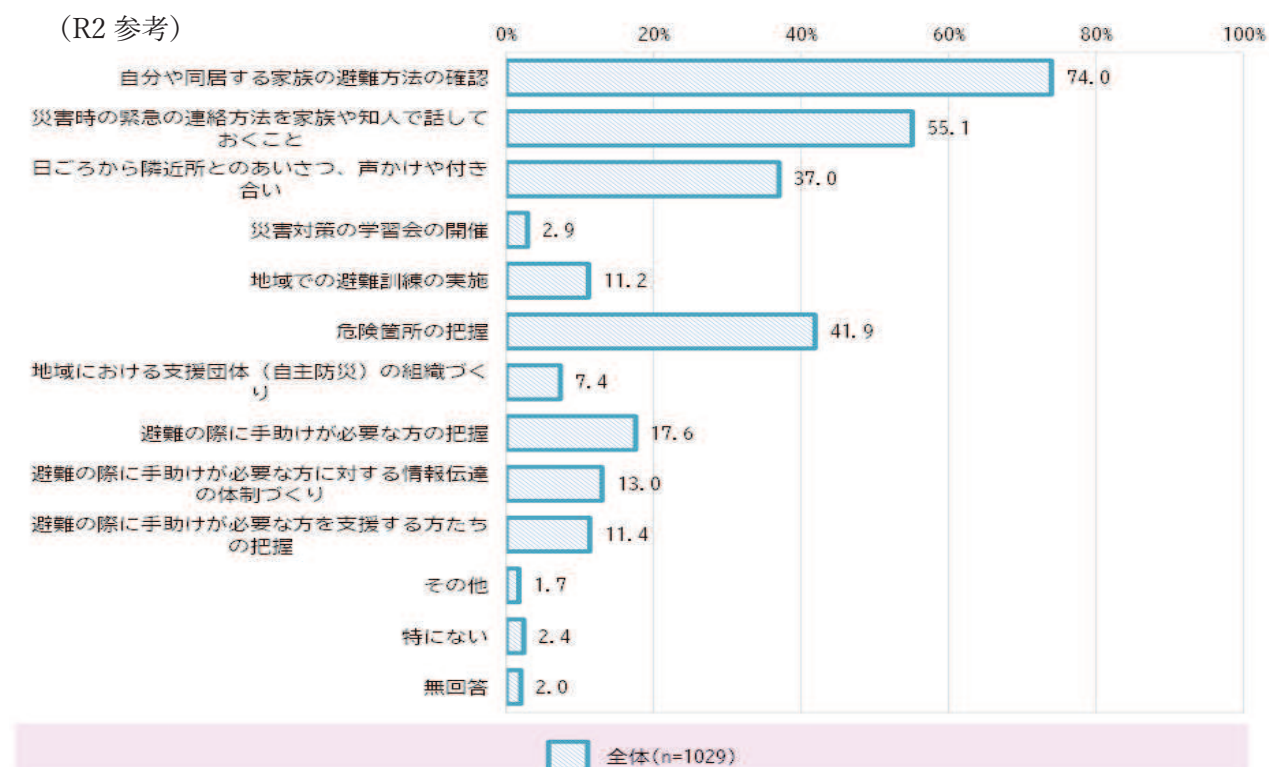
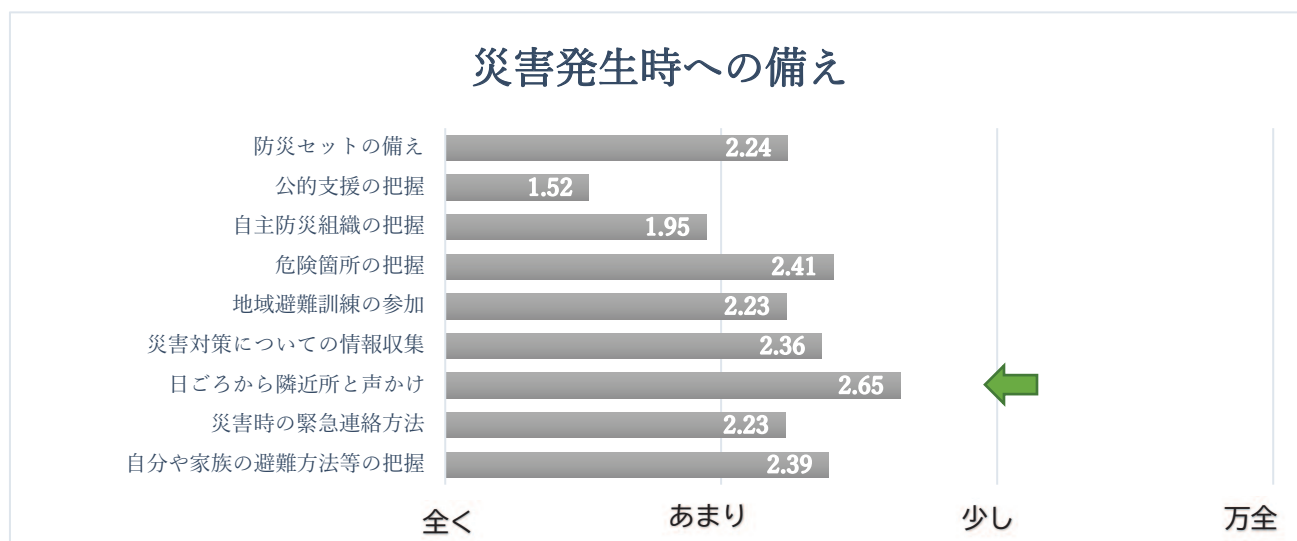
項目2 生活で不安に感じていること

- 生活で不安に感じていることについて、「自身の老後や介護」に対し不安（「やや不安である(40.0%)」と「とても不安である(24.9%)」の合計）との回答率が64.9%と最も高く、次いで「家族の健康や病気」に対し不安（「やや不安である(39.5%)」と「とても不安である(14.5%)」の合計）との回答率が54.0%と高かった。



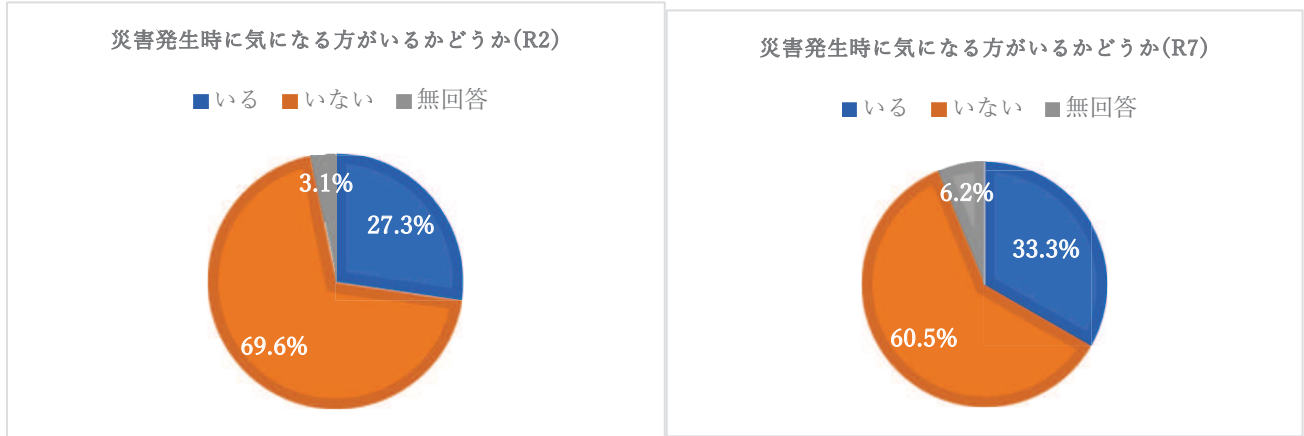
項目3 災害時への備え

- 「支えあい連絡カードへの登録等公的支援(1.52)」や「地域の支援団体(自主防災)組織の把握(1.95)」の平均値が低かった。「日ごろから隣近所とのあいさつ、声掛け(2.65)」が最も高かった。
- 令和2年度までは、災害発生時への備えとして重要と感じる項目の調査を行っていた。「避難方法の確認」、「緊急の連絡方法を家族や知人で話す」、「危険箇所の把握」が上位3項目であったが、本調査の回答傾向として、上位3項目の平均値が重要と示すほどに備えられていなかった。



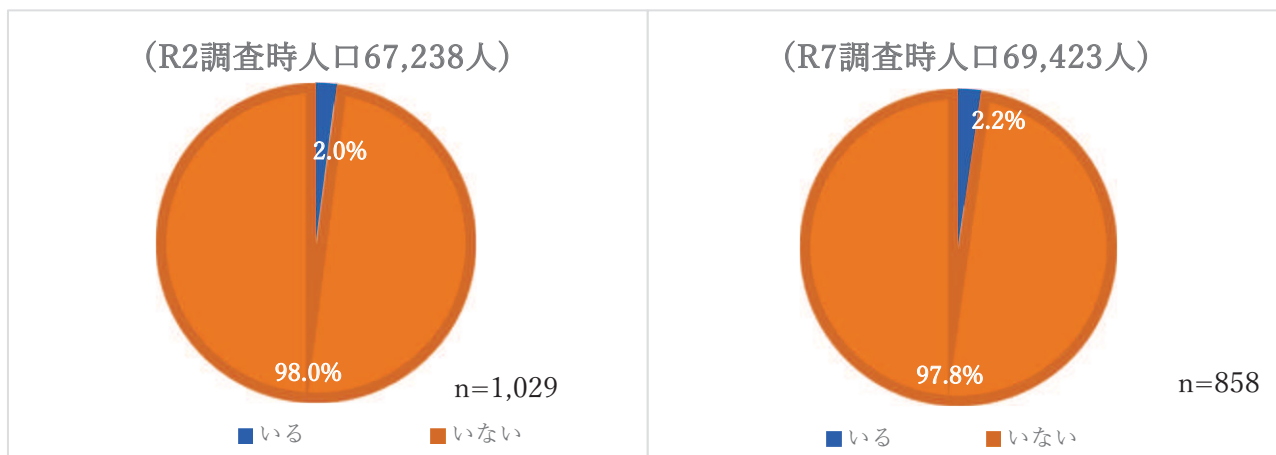
項目4 災害発生時に気になる方がいるか

- 令和7年度の調査において、災害発生時に気になる方がいるかどうかについて、「いる」との回答率が33.3%で、令和2年度時よりも増加した。



項目5 ひきこもりについて

- 令和7年度の調査において、ひきこもり状態の方がいるかどうかについて、「いる」との回答率は2.2%で、令和2年度（2.0%）と大きな変化はなかった。しかしながら、人口は令和2年度と比べて2,185人増加していることから、比率だけで見るとひきこもり状態の人数も増加している可能性があるといえる。

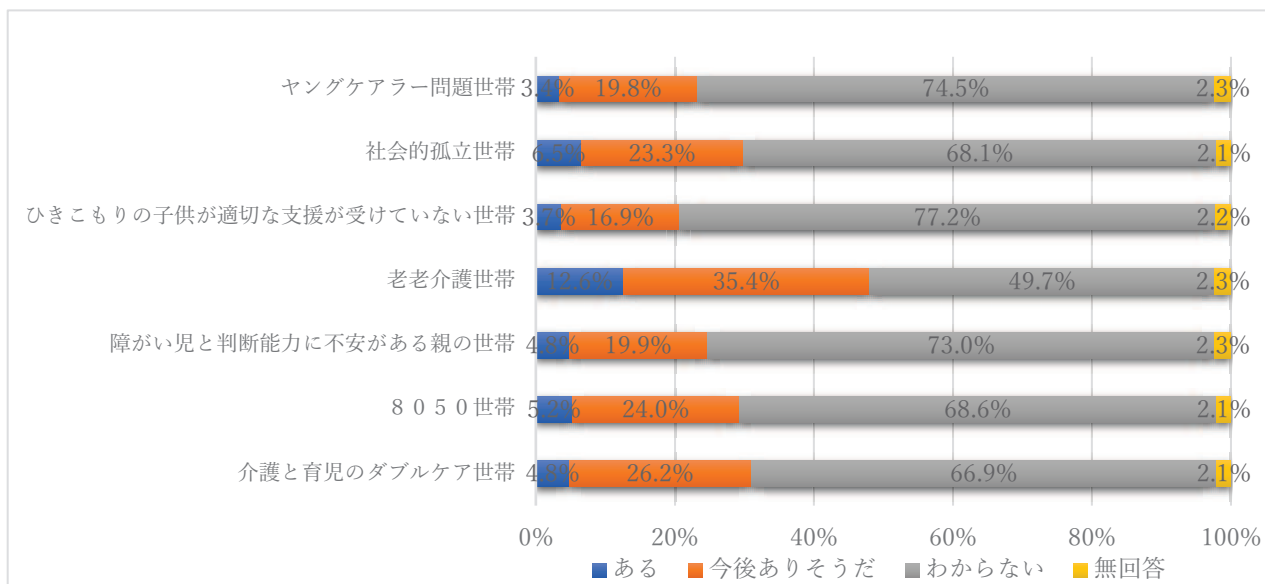


- ひきこもりははじめの年齢層は10代後半のひきこもりはじめが最も多く、調査時現在の年齢層は各年齢層に分布していた。調査時現在の年齢層は各年代に一定数存在することがわかった。今回の調査では10代前半の調査は行っていないが、10代でのひきこもりはじめの多さに対し、注視する必要があるといえる。

ひきこもりはじめの年齢層	調査時現在の年齢層
15~19歳	15~19歳 3人
20~29歳	20~29歳 2人
30~39歳	30~39歳 2人
40~49歳	40~49歳 3人
50~59歳	50~59歳 5人
60~69歳	60~69歳 1人
70歳以上	70歳以上 1人

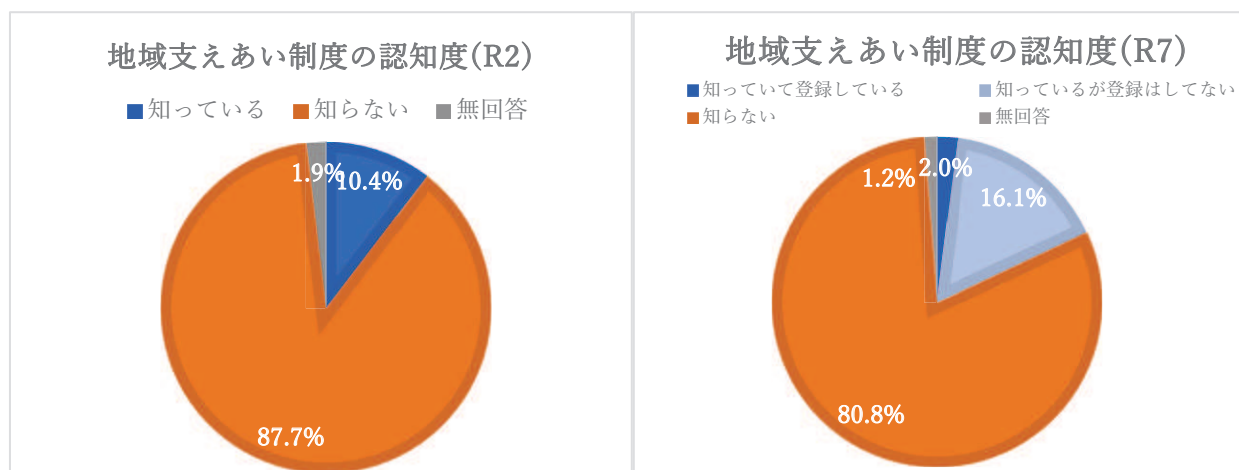
項目6 近隣で問題を抱えている、もしくは抱えそうな世帯の有無

- 回答者全体において、いずれの問題を抱えている世帯も実在が確認されており、今後増えるという認識もあることが窺える。特に老老介護については「ある(12.6%)」も「今後ありそう(35.4%)」も他の設問より回答率が高かった。



項目7 福津市地域支えあい制度の認知度

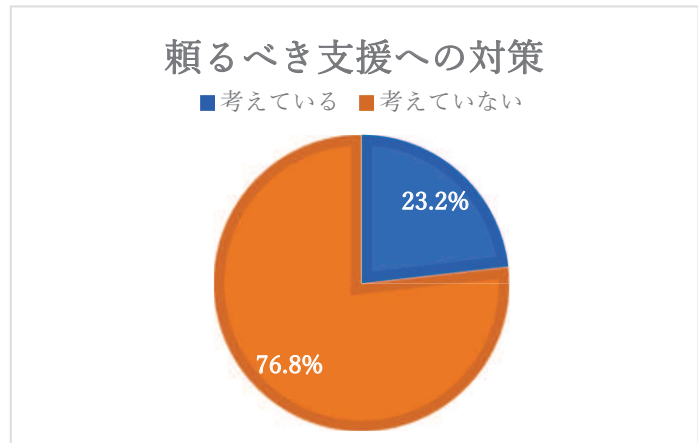
- 令和7年度の調査において、地域支えあい制度を知っている（「知っている登録している(2.0%)」と「知っているが登録はしていない(16.1%)」の合計）とした回答率は18.1%で、令和2年度の「知っている(10.4%)」より認知度は向上した。



※「支えあい制度」という名称は知らなくとも、青いカードやキーホルダーを知っている人は多いと思うので、次回調査を行う際は、カードやキーホルダーを想起させる文言や画像を付けると認知度が向上する可能性あり。

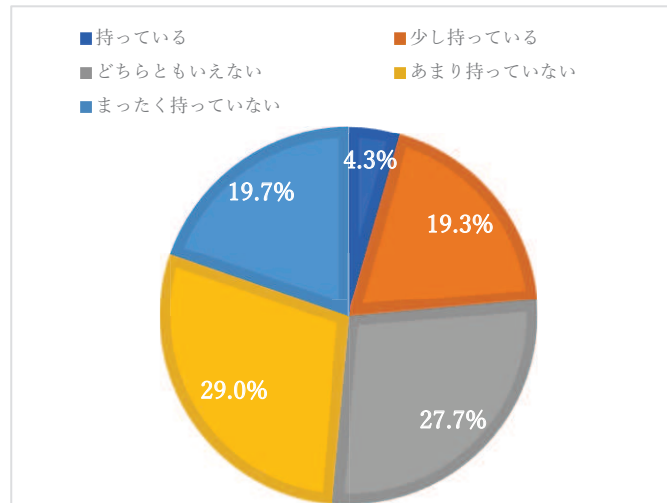
項目8 どのような支援を頼るべきかの対策について

- 令和7年度の調査において、身体の衰えや障がいが生じた際の支援対策を考えているかについて、76.8%の回答者が「考えていない」と回答していた。

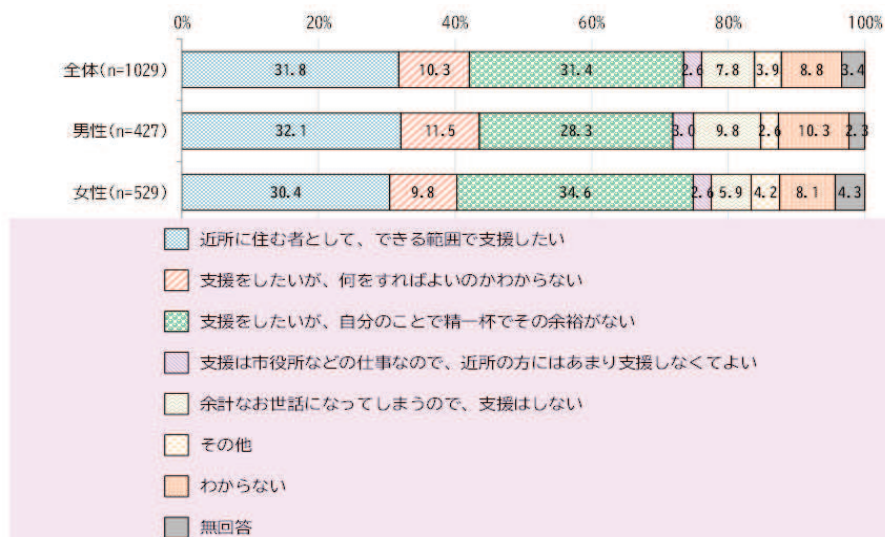


項目9 近隣家庭を手助けできる時間の余裕について

- 令和7年度の調査において、近隣家庭を手助けできる時間の余裕について、持っていない（「あまり持っていない(29.0%)」と「まったく持っていない(19.7%)」の合計）との回答率は48.7%であった。令和2年度の調査では、「余裕がない(31.4%)」、「支援しなくてよい(2.6%)」、「支援しない(7.8%)」の回答率の合計が41.8%であり、両調査において半数程度の回答者が手助けについては消極的であることが窺えた。

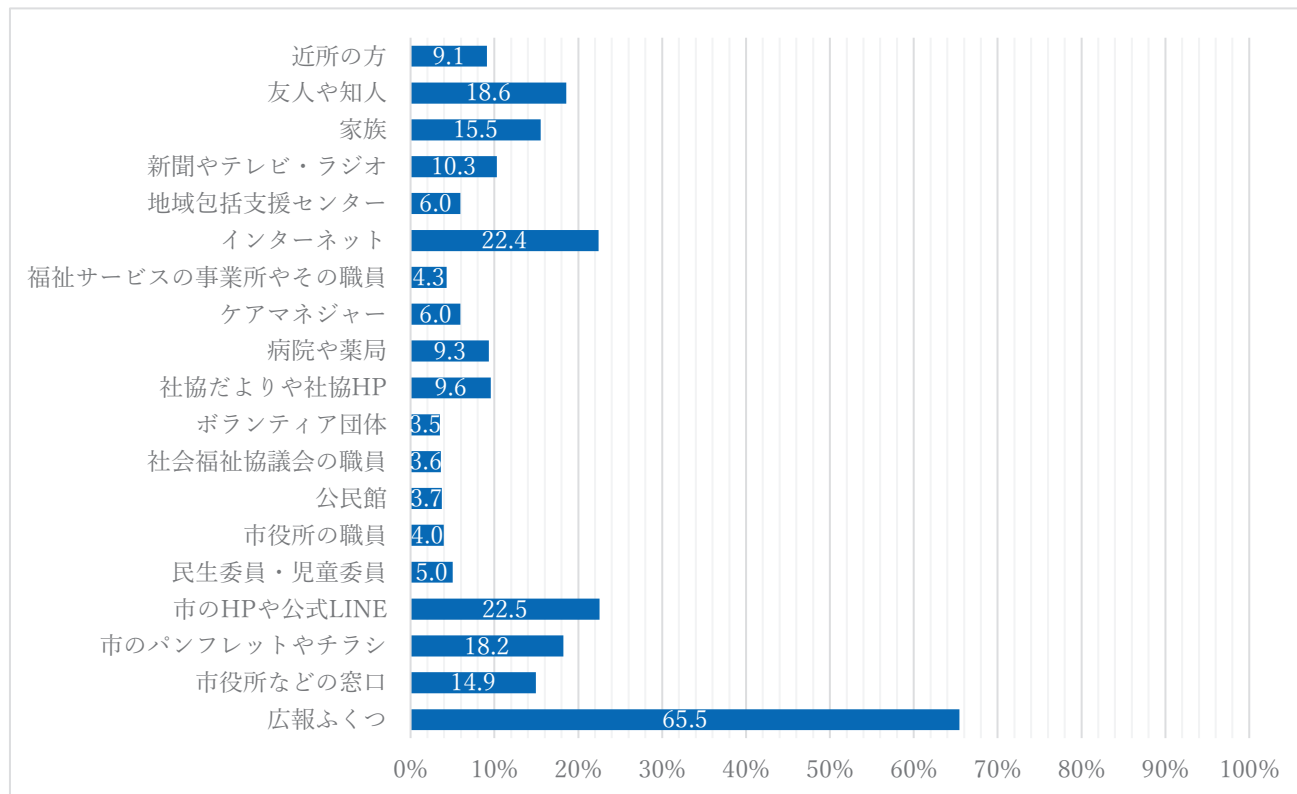


(R2 参考)



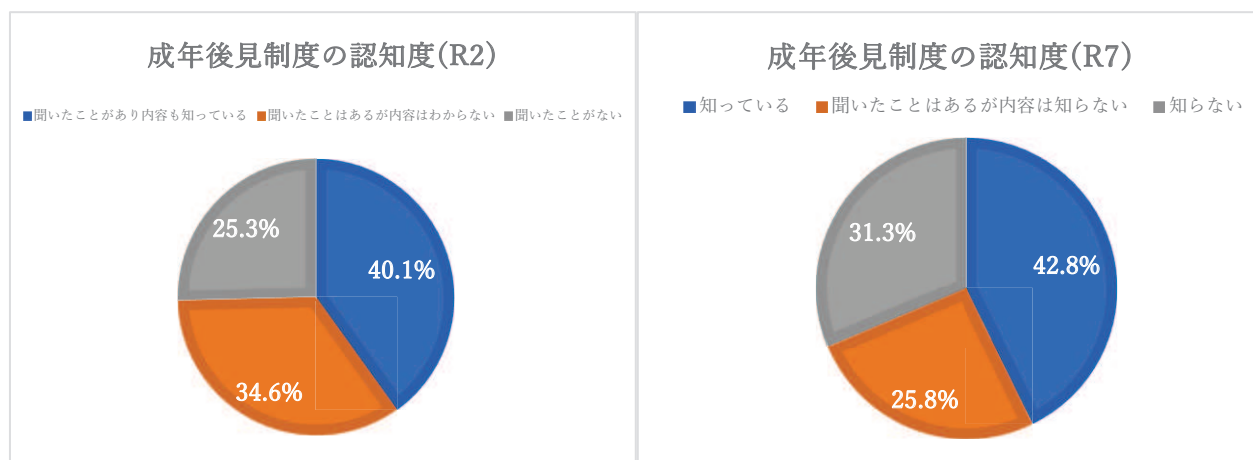
項目 10 福祉サービスや各種相談窓口に関する情報の収集手段(複数回答)

- 福祉サービスや各種相談窓口に関する情報の収集手段について、「広報ふくつ」が65.5%と最も多く、次いで「インターネット」が22.5%、「市のHPや公式LINE」が22.4%であった。



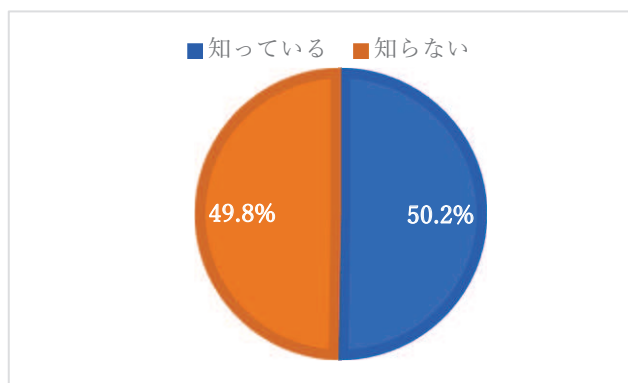
項目 11 成年後見制度の認知度

- 令和7年度の調査において、成年後見制度を知っている(「知っている(42.8%)」と「聞いたことはあるが内容は知らない(25.8%)」の合計)との回答率が68.6%であった。令和2年度調査時の聞いたことがある(「聞いたことがあり内容も知っている(40.1%)」と「聞いたことはあるが内容はわからない(34.6%)」の合計)との回答率は74.7%で、令和7年度の認知度は低下していた。

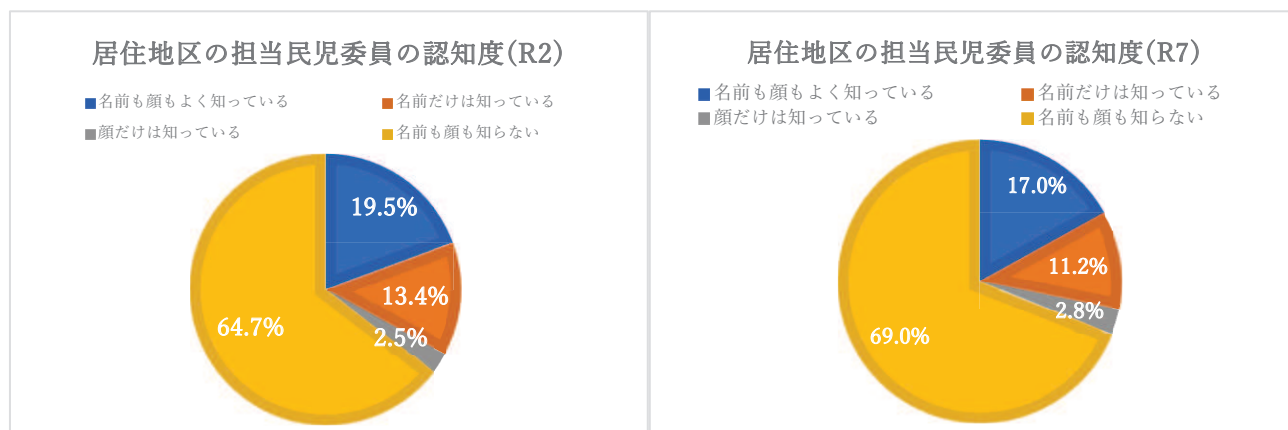


項目 12 民生委員・児童委員の認知度

1-1. 厚生労働大臣に委嘱され活動していることへの認知度について、「知っている」とした回答率 50.2%で、2 人に 1 人の割合で認知されていることが分かった。

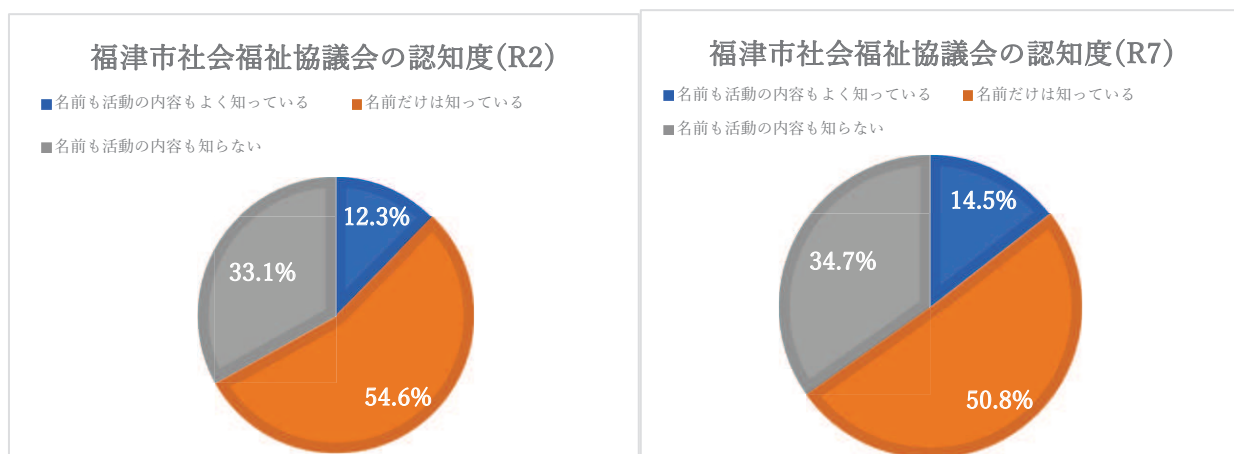


1-2. 居住地区の担当民生委員・児童委員の認知度について、令和 7 年度の調査において、居住地区の担当民児委員を知っている（「名前も顔もよく知っている(17.0%)」、「名前だけ知っている(11.2%)」、「顔だけ知っている(2.8%)の合計」は 31.0%で、令和 2 年度の 35.4%より認知度は低下した。



項目 13 福津市社会福祉協議会の認知度

- 令和 7 年度の調査において、福津市社会福祉協議会を知っている（「名前も活動もよく知っている(14.5%)」と「名前だけは知っている(50.8%)」の合計）とした回答率は 65.3%で、令和 2 年度の 66.9%より認知度が若干低下した。

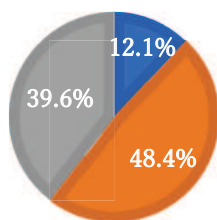


項目 14 各種施設の認知度

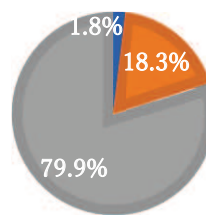
- 令和7年度の調査において、福津市地域包括支援センターを知っている（「知っており、利用したこともある(12.1%)」と「知っているが、利用したことはない(48.4%)」の合計）とした回答率は60.5%であり、半数以上の市民に認知されていることが窺えるが、その他の施設についての認知度は低く、今後も周知方法を検討すべき結果となった。

■ 知っており、利用したこともある ■ 知っているが、利用したことはない ■ 知らない

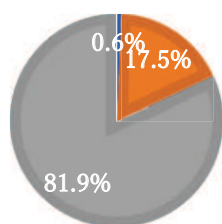
福津市地域包括支援センターの認知度



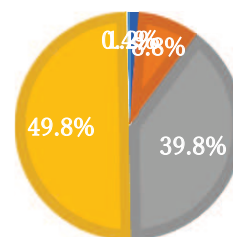
福津市基幹相談支援センターの認知度



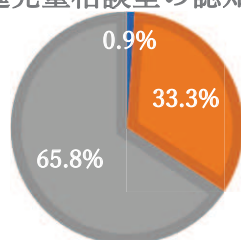
虐待防止センターの認知度



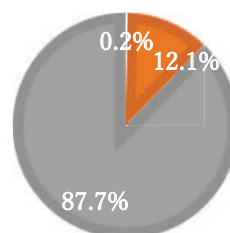
福津市未来共創センター(キッカケラボ)の認知度



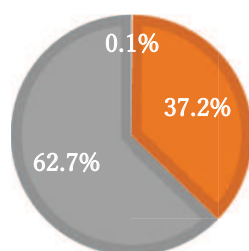
家庭児童相談室の認知度



親子のための相談LINEの認知度

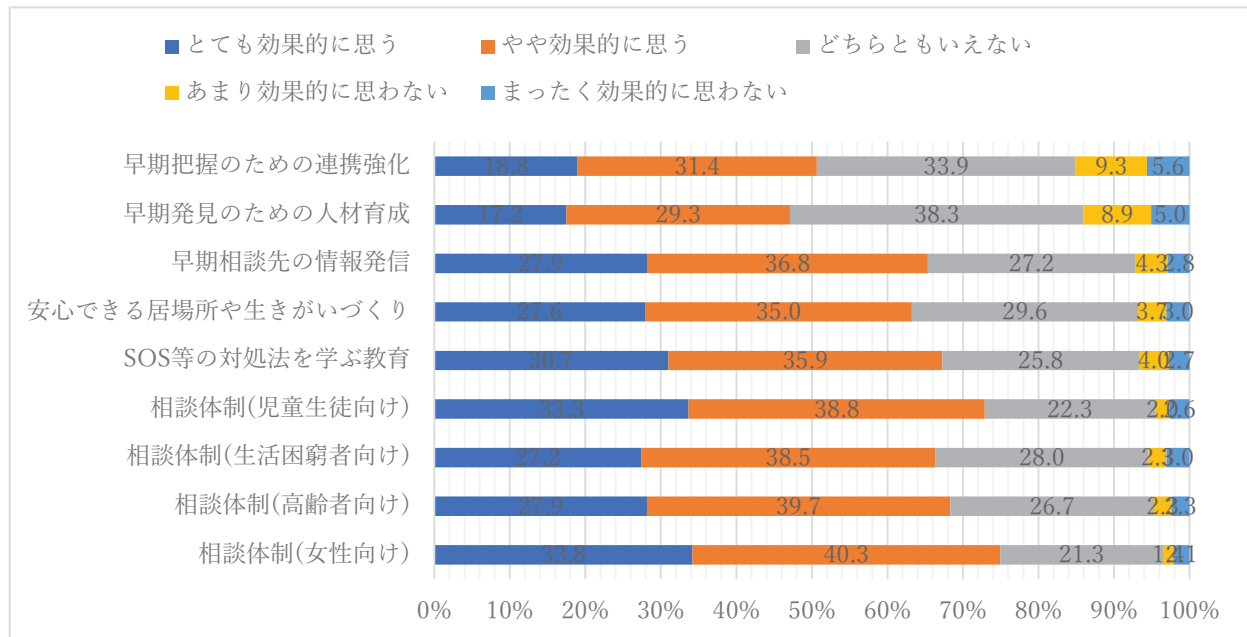


子どもホットライン24相談窓口の認知度



項目 15 自殺予防として効果的な対策について

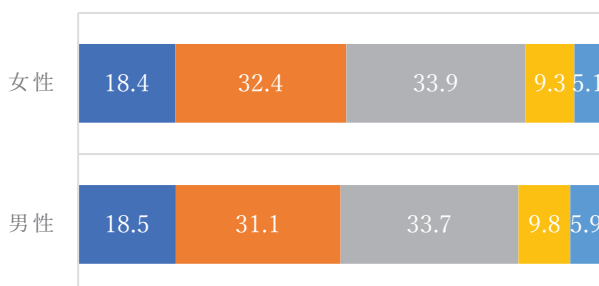
- 自殺予防として効果的な対策について質問したところ、「相談体制(児童生徒向け)」に対し効果的（「やや効果的に思う(38.8%)」と「とても効果的に思う(33.3%)」の合計）との回答率が72.1%、「相談体制(女性向け)」に対し効果的（「やや効果的に思う(40.3%)」と「とても効果的に思う(33.8%)」の合計）との回答率が74.1%と、比較的高かった。



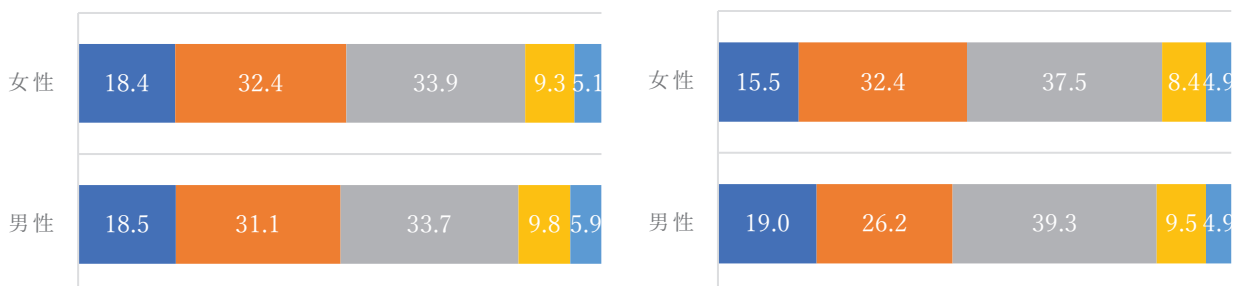
- 男女別に回答傾向を比較したところ、どの取り組みに対しても女性の方が効果的であると回答しており、中でも「SOS等の対処法を学ぶ教育」を効果的（「とても効果的に思う(31.5%)」と「やや効果的に思う(40.1%)」の合計）との回答率が71.6%、「相談体制(児童生徒向け)」に対し効果的（「とても効果的に思う(35.3%)」と「やや効果的に思う(42.4%)」の合計）との回答率が77.7%、「相談体制(女性向け)」に対し効果的（「とても効果的に思う(36.4%)」と「やや効果的に思う(42.8%)」の合計）との回答率が79.2%と、比較的高かった。



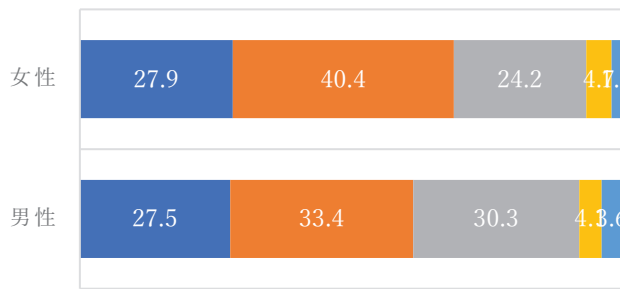
早期把握のための連携強化



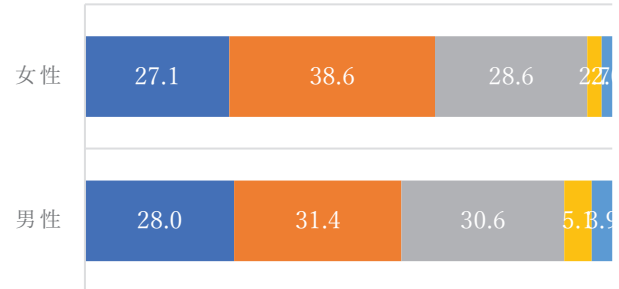
早期発見のための人材育成



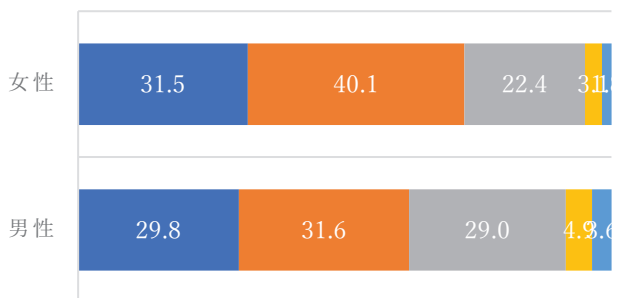
早期相談先の情報発信



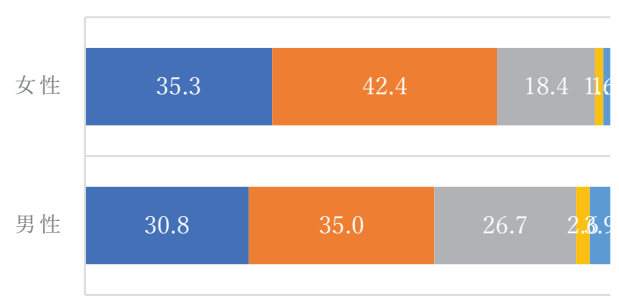
安心できる居場所や生きがいをづくり



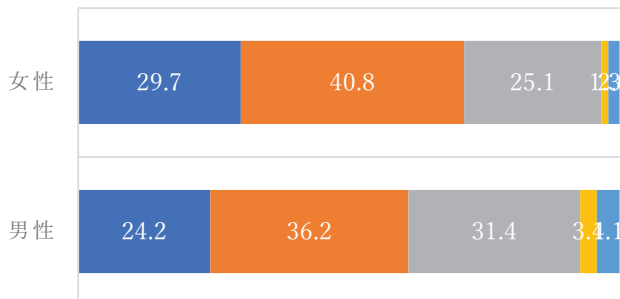
SOS等の対処法を学ぶ教育



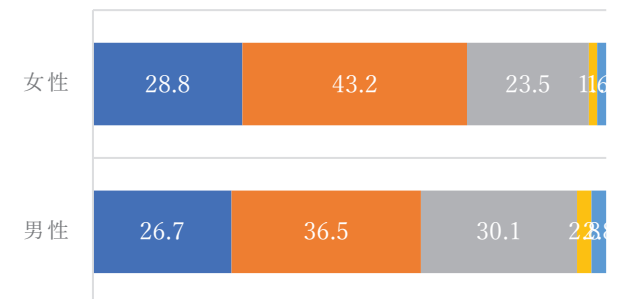
相談体制(児童生徒向け)



相談体制(生活困窮者向け)



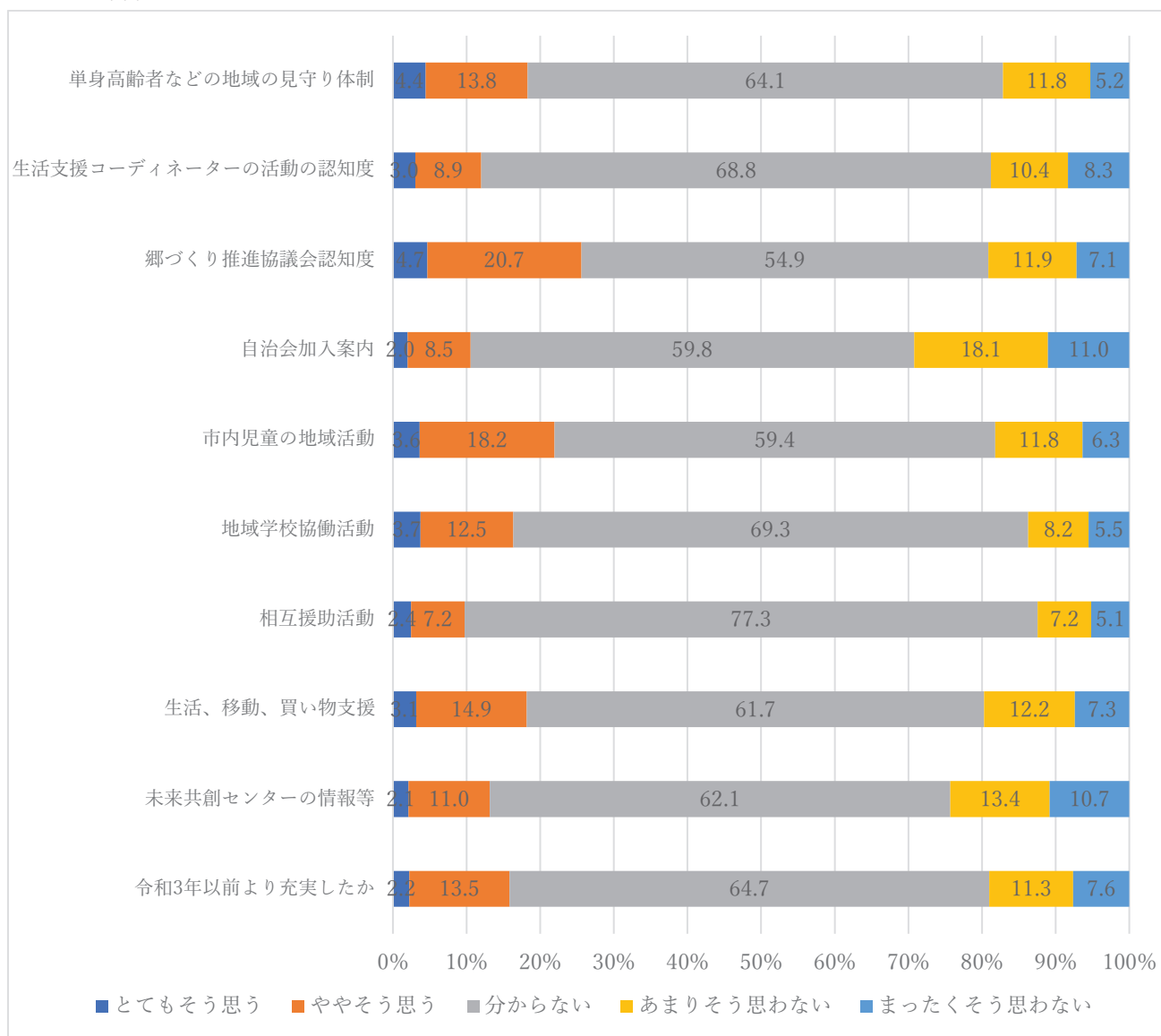
相談体制(高齢者向け)



項目 16 第 3 期福津市地域福祉計画・第 2 期福津市地域福祉活動計画の取組の充実度

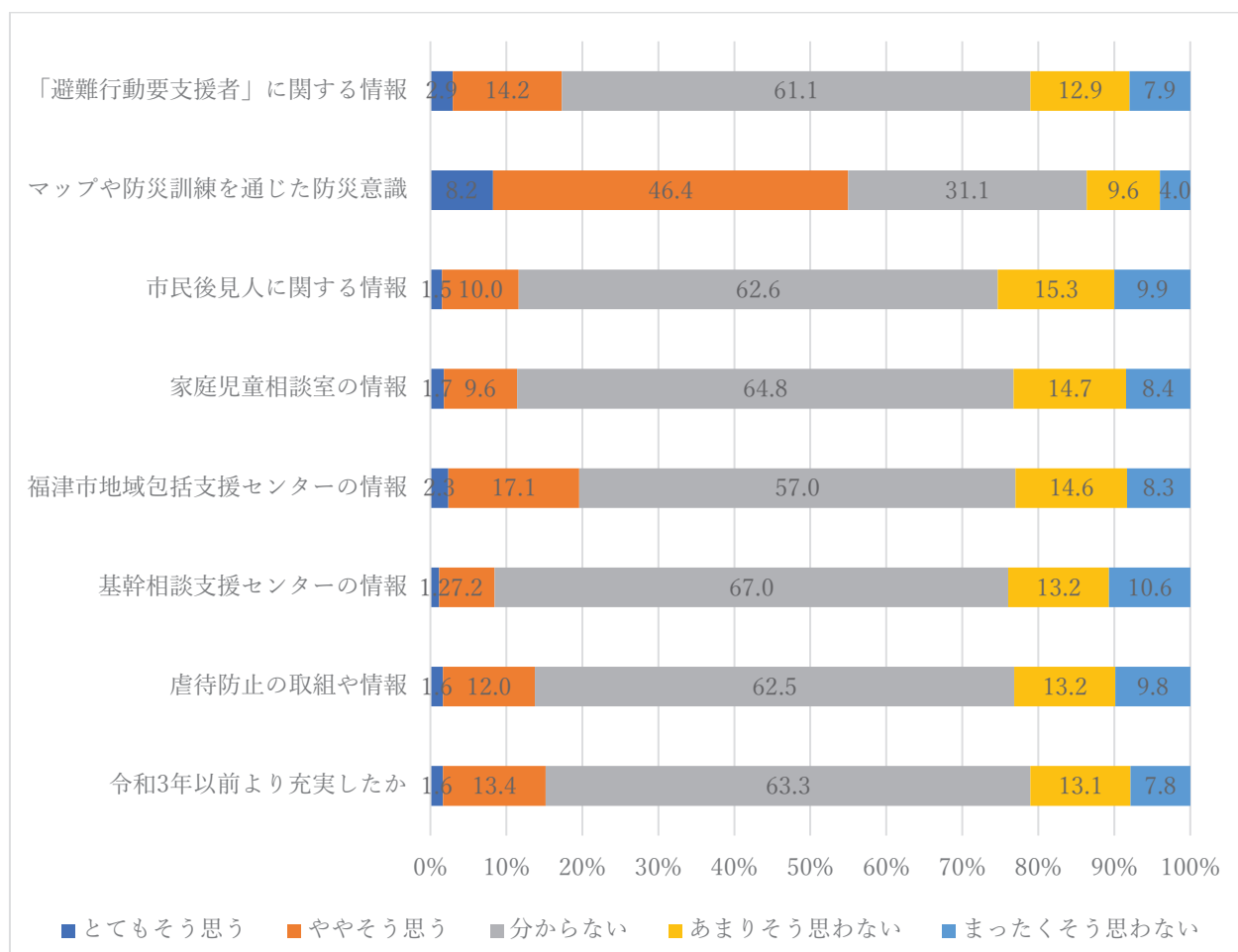
基本目標 1 地域で支え合う「まちづくり」

- 各設問について、これらの取り組みが令和 3 年以前より充実しているかどうか尋ねたところ、全体的に「わからない」との回答が大半を占めるが、中でも、郷づくり推進協議会認知度（設問内容は、郷づくり推進協議会やその活動の認知度が高まった）のそう思う（「とてもそう思う（4.7%）」と「ややそう思う（20.7%）」の合計）が 25.4%と最も高く、次いで市内児童の地域活動（設問内容は、市内の児童生徒が積極的に地域活動に取り組んでいる姿を見かけるようになった）のそう思う（「とてもそう思う（3.6%）」と「ややそう思う（18.2%）」の合計）が 21.8%と高かった。
- 一方で、自治会加入案内（設問内容は、自治会の加入を促す案内が充実した）はそう思わない（「あまりそう思わない（18.1%）」と「まったくそう思わない（11.0%）」の合計）が 29.1%と否定的な評価であった。



基本目標2 誰もが安心して暮らせる「まちづくり」

- 誰もが安心して暮らせる「まちづくり」では、マップや防災訓練を通じた防災意識（設問内容は、各戸配布された「福津市総合防災マップ」や地域の防災訓練を通じて、防災意識が高まった）について、そう思う（「とてもそう思う(8.2%)」と「ややそう思う(46.4%)」の合計）が54.6%と最も高かった。それ以外の設問では基本目標1と同様、わからないとの回答が大半であった。



基本目標3 いつでも相談できる「まちづくり」

- いつでも相談できる「まちづくり」についても、全体的にわからないとの回答が大半であった。

